第4編

第10章

eラーニング推進機構

第１節　設立趣旨と背景

第１項　設立背景

熊本大学では、教育におけるIT化の取り組みとして、1996（平成８）年前後に開始された学務情報システムSOSEKIの開発及び全学展開を発端とし、ｅラーニングシステムの全学導入、約1,300台の情報教育端末や全学無線LAN等の基盤整備、情報基礎教育の全学必修化、日本初のｅラーニングによるｅラーニング専門家養成大学院である社会文化科学研究科教授システム学専攻の開設等、さまざまな事項について組織的に取り組んできた。その成果は、ｅラーニング関係の2003（平成15）・2004（平成16）年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」、2006（平成18）年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に選定されるなど、外部からも高く評価されている。

他大学においてもｅラーニングシステム等の普及が進み、大学教育におけるIT環境が整う中で、教育コンテンツのデジタル化やオンライン化が急速に進む大きな変革期を迎えると思われる。本学は、ｅラーニングに関して、システム環境の整備だけでなく教育内容の質的な保証を重視してきており、高品質なｅラーニングを開発するためのインストラクショナルデザインを中核とする教授システム学専攻の開設等にいち早く取り組んだ。実際に欧米に比べて我が国は、この分野の専門家が極めて少ないのが現状であり、その中で本学は、ｅラーニングのコンテンツ開発や質保証について全国屈指のレベルにあると考えられる。

教育におけるIT化を広い意味でのｅラーニングと捉え、熊本大学のｅラーニングを更に促進し発展させるために、2007（平成19）年４月にｅラーニング推進機構は設立された。ｅラーニング化を集中的に促進するには、責任ある支援体制を組織的に構築する必要があるとの判断に基づき、コンテンツ制作支援にとどまらず、ｅラーニング関連システム・アプリケーションの管理・運営・構築、コンテンツの評価・公開、著作権・使用権等の規定制定等を責任を持って行う組織を全学的な協力体制のもとで構築することとしたのである。

写真１　ｅラーニング推進機構除幕式（2007年４月）

ｅラーニング推進機構は、ｅラーニングに関する全学的な窓口としての機能を有するだけでなく、広く社会に貢献することを目指し、国内・国外を問わず対外的な窓口としての機能も併せ持っている。2007（平成19）年７月には、日本におけるｅラーニング関連の教育研究における中心的存在であった独立行

政法人メディア教育開発センター（NIME）と熊本大学との間で包括的連携協定が締結された際に、また、NIMEの事業を引き継いだ放送大学と熊本大学との間で包括的連携協定が締結された際にも、当機構が連携・協力の総合窓口としての役割を果たした。

第２項　組織・運営

図１に、ｅラーニング推進機構の組織と業務の概要を示す。組織の中核となるｅラーニング推進室に専任の教授・准教授・技術職員各１名を置き、非常勤職員10名前後を加えた構成となる。機構全体としては、更に全学からの兼務教職員20名程度が加わる。以下に各セクションの役割を紹介する。

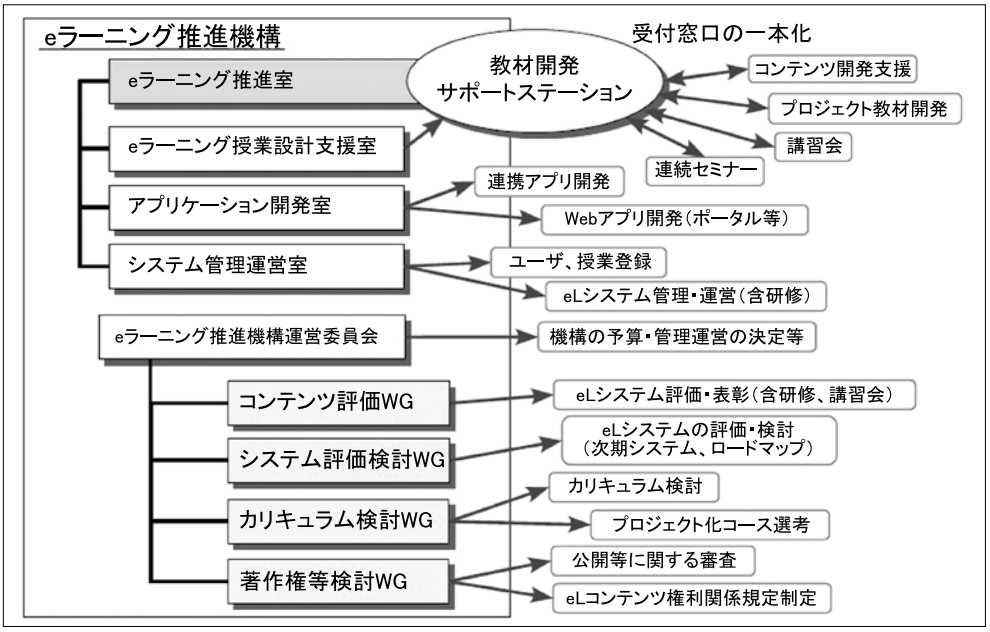

図１　ｅラーニング推進機構の組織構成

１　ｅラーニング推進室

本機構の中核となるｅラーニング推進室の主な業務は、ｅラーニングコンテンツの開発支援と関連研究であり、教材開発に関する学内外窓口を同室に一本化している。当推進室内に設置された教材開発サポートステーションは、総合情報基盤センターに設置されていた教材作成室の流れを汲むもので、さまざまなスキルを持った技術補佐員と事務補佐員によって構成され、本学のｅラーニングコンテンツ等の開発を全国屈指のレベルで補佐するチームである。

ｅラーニングコンテンツは、遠隔教育だけでなく、通常の対面（面接）授業の教育効果を格段に向上させる可能性も持っている。例えば、オンラインの繰り返し学習、自動採点テスト、グループディスカッション、学習履歴モニタ等を活用することにより、予習・復習を充実させ、教員がより教育内容に専念できる効果が期待される。また、教育内容や研

写真２　メディア収録スタジオ

究成果は大学の重要な資産だが、それらを効率的かつ教育効果の高いコンテンツにすることによって、継承可能かつ有形の資産となる。デジタルコンテンツ開発のための各種メディア編集装置、配信サーバ、防音機能を備えたメディア収録スタジオ（写真２）が設置されており、当推進室を中心に活用されている。

２　ｅラーニング授業設計支援室

教材のデジタルコンテンツ化では、その設計方法により完成したコンテンツの価値が大きく左右される。本学には「社会文化科学研究科教授システム学専攻」という優れたコンテンツ化の手法を教育・研究する専攻を有しており、本支援室は、その関係者を中心として構成され、全学的に教材設計指導や情報提供を行う。その一環として、ランチョンセミナーと銘打ったセミナーを毎週開催している。ランチョンセミナーは、ランチタイムに行われるeラーニングを中心とした学びに関する研究や実践に関する情報の交換の場である。参加者は限定されておらず、学内・学外の者が自由に参加でき、オンラインでの参加も可能である。2008（平成20）年度に９回、2009（平成21）年度に36回、それぞれ実施された。

３　アプリケーション開発室

ｅラーニング関連の各種ウェブアプリケーションの開発及び大学統合認証、大学ポータル等への対応、システム連携に関する作業や開発等を目的として、学内関係機関が集結して対応している。

４　システム管理運営室

ｅラーニング関連のシステムには、学務情報、学習管理、教育用端末PC等多くあり、更に分散化の方向にあるため、責任体制を明確化した上で全学的な連携を密にとりながら管理運営を行っている。

５　各ワーキンググループ

ｅラーニング推進機構には、４つのワーキンググループ（WG）が設置されている。「コンテンツ評価WG」はデジタル教材の評価・表彰・促進を目的とする。「システム評価検討WG」は大学のｅラーニングシステム等の選考を行う。「カリキュラム検討WG」は教材のデジタルコンテンツ化を踏まえたカリキュラムのあり方を検討する。「著作権等検討WG」はコンテンツの著作権や使用権等に関する指針、帰属等に関する権利規定の制定等を目的とする。

第２節　ICTを活用した教育改善の成果

ｅラーニング推進機構は、2007（平成19）年度の発足以来2009（平成21）年度までに、主に以下のような開発業務や活動を行った。

第１項　授業用ｅラーニングコンテンツ

全学に提供しているｅラーニングシステム上に、各部局の授業用の教材コンテンツを各種開発した。また、授業担当教員と相談しながらコンテンツの構築や改訂を行っている。

１　2007（平成19）年度

（１）新規開発した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け：「ナレッジ・マネジメント」「情報技術教育方法論」「eラーニングコンサルティング論」「eラーニング実践演習I」「eラーニング実践演習Ⅱ」「ネットワークセキュリティ論」「外国語教育におけるeラーニング」「情報ビジネス経営論」「eラーニング政策論」「コンテンツ標準化論」

（２）内容改訂した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け:「インストラクショナル・デザインI」「インストラクショナル・デザインⅡ」「遠隔教育実践論」「基盤的教育論」「基盤的情報処理論」「ｅラーニング概論」「経営学特論」「教育ビジネス経営論」「職業人教育訓練におけるeラーニング」「特別研究I」「教育心理学」

２　2008（平成20）年度

（１）新規開発した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け：「質的研究法演習」「ｅラーニング実践演習開発科目」「職場課題実践研究パイロット版」「Global Education Strategies（グローバル教育戦略論）パイロット授業」「SCC用問い合わせ科目」「コンテンツ評価研究論演習」

②社会文化科学研究科向け：「情報社会論」「倫理学基礎論」「文化財保護論」「コミュニケーション論」

③工学部向け：「デジタル信号処理第一」「情報電気電子工学実験第一」

④教養教育科目：「都市・建築入門Ｄ」「素粒子理論の最前線」

⑤医学部保健学科向け：「看護学概論」

⑥医学教育部向け：博士後期課程９コース

（２）内容改訂した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け:「SCCホーム関連コンテンツ」「学習ポートフォリオの外観作成」「ｅラーニング実践演習I」「ｅラーニング実践演習Ⅱ」「オリエンテーションＡ」「コンテンツ開発研究法演習」「ｅラーニング概論Ａ・Ｂ」

②工学部向け：「情報電気電子工学実験第一」（修了証書出力機能の開発を含む）
③医学部向け：「臨床実習入門」（動画教材の差替え）

3　2009（平成21）年度

（1）新規開発した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け：「eラーニング実践演習開発科目」「マルチメディア利用研究論演習」「オリエンテーションA」「オリエンテーションB」「オリエンテーションC」「グローバル教育戦略論」「ｅラーニング概論」「コンテンツ評価研究論演習」「特別研究II」
②理学部向け：「火山を究める」「物理実験A及び物理実験B」「物理学IIB」
③工学部向け：「基礎数学演習第二」
④自然科学研究科向け：「理数学生応援プロジェクト」
⑤薬学部向け：「環境教育GP」
⑥教養教育科目：「グローカルな社会の動態B：移動と文化」「インターネットの発展と人間社会」
⑦教育学部向け：「生活A組/B組」
⑧医学教育部向け：「医学教育部遠隔学習オリエンテーション」
⑨医学部保健学科向け：「看護倫理」「健康教育論演習」「基礎看護方法論I」
⑩附属図書館向け：「基礎セミナー図書館活用法」

（2）内容改訂した科目

①社会文化科学研究科教授システム学専攻向け：「遠隔教育実践論」「インストラクショナル・デザインI」「SCC用問い合わせ科目」「質的研究法演習」「ｅラーニング実践演習I」「GSISポータルSCCホーム関連コンテンツ」
②社会文化科学研究科向け：「文化財保護論」「コミュニケーション論」
③医学教育部向け：「病理学Ⅱ」

第２項　職員研修用コンテンツ

従来、主に集合研修の形態で行われていた本学教職員向けのさまざまな研修･セミナー･講習会などにｅラーニングの要素を取り入れ、効率・効果向上を図っている。

1　2008（平成20）年度

（1）開発したコンテンツ

①教務課からの依頼：「大学入試センター試験英語リスニング監督者用演習ビデオ」
②技術部、研究支援課ほかからの依頼：「放射線取扱者教育訓練」
③人事課からの依頼：「新規採用職員プレゼンテーション研修」撮影動画編集及びCD作成

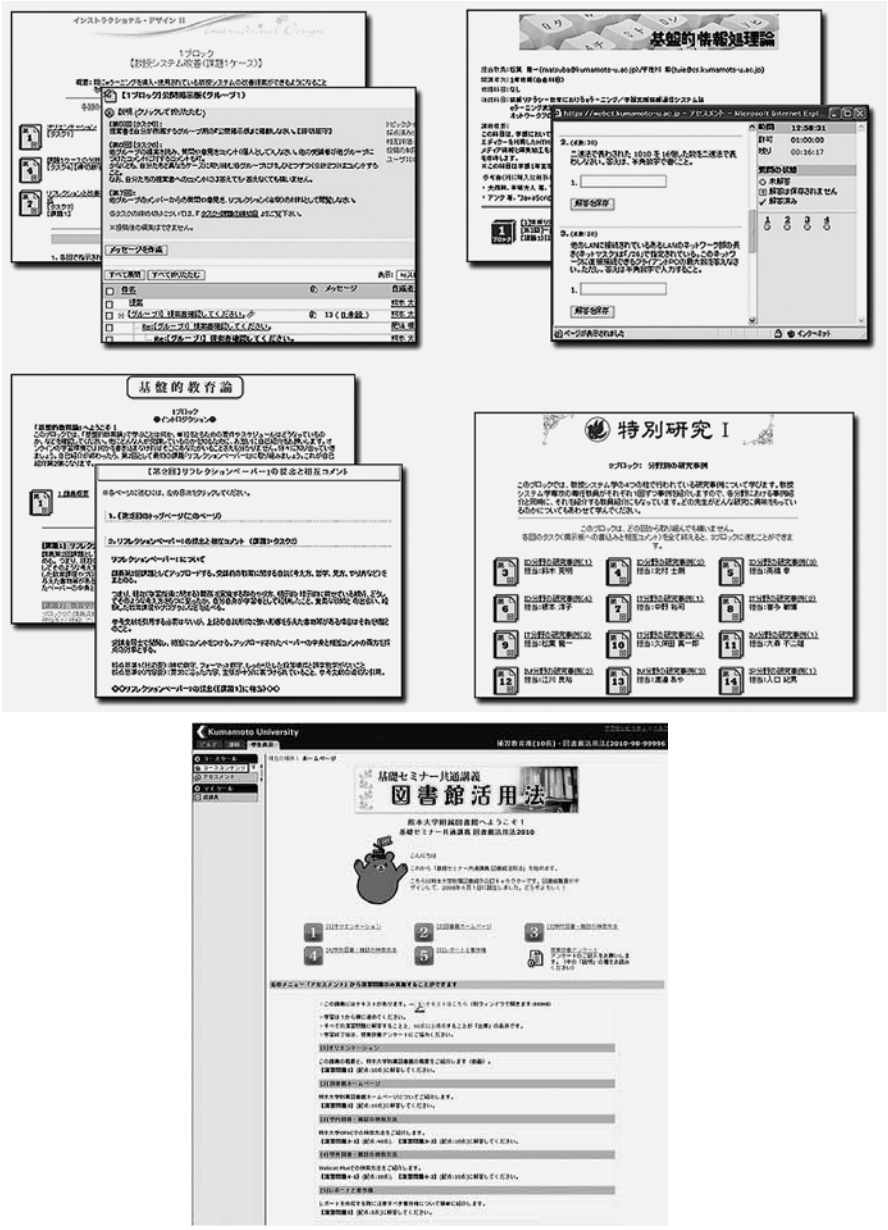

図２　開発した各科目の授業用ｅラーニングコンテンツの例

２　2009（平成21）年度

（１）開発したコンテンツ

①事務改革推進室からの依頼：「熊本大学事務職員意識変革シンポジウム」の動画撮影補助及び編集補助

②附属病院からの依頼：「医療安全研修会」及び「感染対策研修会」のコース新規作成及

び撮影

③事務改革推進室からの依頼：「事務改革セミナー」動画編集補助

④情報企画課からの依頼：「情報セキュリティ研修会」動画編集

⑤附属病院からの依頼：「医療安全のための講習会」動画撮影及び動画編集

⑥附属病院からの依頼：「院内感染対策研修会」動画撮影及び動画編集

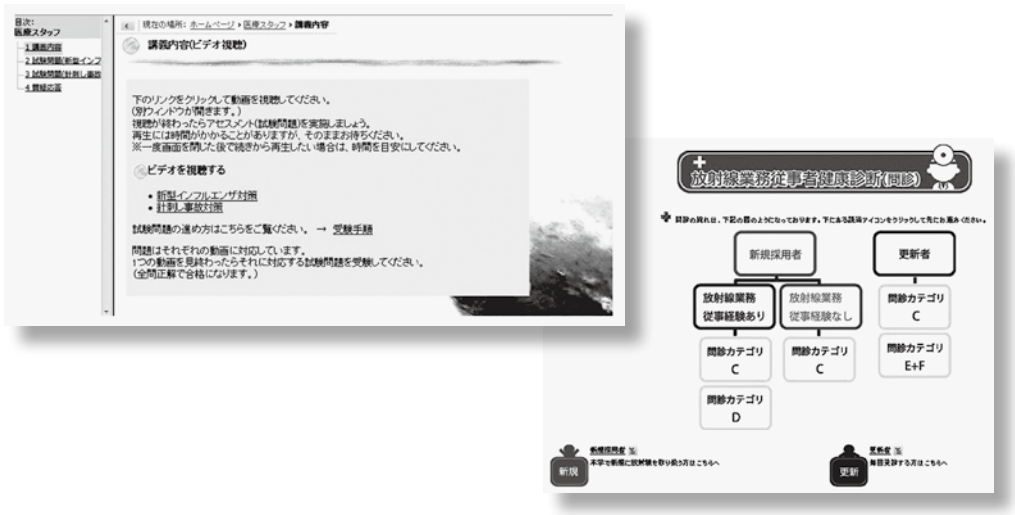

図３　開発した職員研修用コンテンツの例

第３項　ｅラーニングに関する広報・イベントなど

熊本大学では、学内及び学外に対してｅラーニングに関する情報提供を行うイベント等がしばしば実施されており、本機構はそのサポートを行っている。

１　2007（平成19）年度

（１）実施あるいは実施サポートを行ったイベント

①第11回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「e-learningのイノベーションの展開研修サービス提供企業における品質管理事例」2007（平成19）年４月20日

②第12回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「大学eラーニングの課題―ブレークスルーの条件―」2007（平成19）年12月11日

③熊本大学国際セミナー「高等教育の国際化と国際戦略」2008（平成20）年３月３日

④第13回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「ICTで学習を継続するための方略」2008（平成20）年３月17日

⑤第１回熊本大学ｅポートフォリオ研究会　2007（平成19）年12月20日

（2）開発した広報用資料・コンテンツ

①熊本大学ｅポートフォリオ研究会ウェブサイト改訂

②熊本大学国際セミナーウェブサイト改訂

2　2008（平成20）年度

（1）実施あるいは実施サポートを行ったイベント

①LMS講習会（学内の参加希望に応じて毎週火曜日に実施。2008年度は３回実施）

②ｅラーニング授業設計支援室ランチョンセミナー（オンラインで一般公開して毎週水曜日に開催。2008年度は９回開催）

③技術研修会（JSP、Servlet、JDBC等についてアプリケーション開発室及びシステム管理運営室のメンバーを中心に毎週火曜日に実施）

④第14回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「効果的なｅラーニング実施のための道標：インストラクショナル・デザインの巨匠お二人を迎えて」2008（平成20）年４月22日

⑤熊本大学国際セミナー「大学国際化戦略の理論と実践」2008（平成20）年６月３日

⑥第15回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「ｅラーニングと学習科学―韓国と米国における教育実践の最新事情」2008（平成20）年８月29日

⑦熊本大学国際教育セミナー「国際的に通用する高等教育プログラム」2008（平成20）年９月29日

⑧第２回熊本大学ｅポートフォリオ研究会　2008（平成20）年10月16日

⑨熊本大学国際教育セミナー「国際的に通用する高等教育プログラム」2008（平成20）年12月15日

⑩熊本大学国際セミナー「遠隔教育と見えない学習者」2009（平成21）年３月５日

（2）開発した広報用資料・コンテンツ

①ｅラーニング推進機構のポスター（AO版）及びリーフレット作成、ウェブサイト改訂

②ｅラーニング連続セミナーウェブサイトの全体デザインを改訂

③ｅラーニング授業設計支援室ランチョンセミナーウェブサイト作成

3　2009（平成21）年度

（1）実施あるいは実施サポートを行ったイベント

①LMS講習会（学内の参加希望に応じて毎週火曜日に実施。2009年度は３回実施）

②ｅラーニング授業設計支援室ランチョンセミナー（オンラインで一般公開して毎週水曜日に開催。2009年度は38回開催）

③技術研修会（JSP、Servlet、JDBC等についてアプリケーション開発室及びシステム管理運営室のメンバーを中心に毎週火曜日に実施）

④第16回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「ｅラーニングにおける学習持続」2009（平成21）年５月12日

⑤第17回熊本大学ｅラーニング連続セミナー「eラーニングと生涯学習」2009（平成21）年７月14日

⑥熊本大学国際セミナー「英国リバプール大学の国際産学連携によるｅラーニング政策」2009（平成21）年８月11日

⑦熊本大学国際セミナー「高等教育の世界的趨勢：グローバル化、競争、知識の視点から」2009（平成21）年10月13日
⑧第３回熊本大学ｅポートフォリオ研究会　2010（平成22）年３月16日

（２）開発した広報用資料・コンテンツ

①ｅラーニング推進機構チラシ作成
②教授システム学専攻チラシ作成

第４項　その他

本機構は、ｅラーニングそのものではないが、ｅラーニングの関連技術・周辺技術を用いるウェブサイトやコンテンツ作成についても、内製によって質の高いものを低いコストで実現する意味から請け負っている。

１　2008（平成20）年度

（１）開発したコンテンツ

①文学部、社会文化科学研究科、永青文庫センター及び同設立準備委員会からの依頼：永青文庫研究センターウェブ作成（全体デザインと構成、Flash動画作成を含む）
②社会文化科学研究科からの依頼：VHS授業資料のDVD化
③社会文化科学研究科からの依頼：各コース紹介動画（撮影及び編集）

２　2009（平成21）年度

（１）開発したコンテンツ

①情報企画課からの依頼：「学長離任式」ライブストリーミング配信及び録画、編集、公開、DVD作成
②情報企画課からの依頼：「学長就任式」ライブストリーミング配信及び録画、編集、公開、DVD作成

図４　開発したウェブサイトの例

③永青文庫研究センター、社会文化科学研究科からの依頼：熊本大学文学部創立30周年記念事業・文学部附属永青文庫研究センター設置記念事業「永青文庫史資料の可能性」撮影及び動画編集

④教育プログラム開発推進ワーキンググループからの依頼：大学教育推進プログラム（GP）採択取組「学習成果に基づく学士課程教育の体系的構築」ウェブサイト全体デザインと構成及び運用

⑤大学教育機能開発総合研究センターからの依頼：「KU：TOのウェブサイト作成」CMSによる全体デザインと構築、動画撮影及び編集

⑥大学教育機能開発総合研究センターからの依頼:「大学教育機能開発総合研究センターウェブサイト作成」全体デザイン及び構築

第３節　今後の展開

ｅラーニング推進機構の活動によって、熊本大学における教育内容のデジタルコンテンツ化が進められており、今後も着実に行われることが期待される。

また、組織化による支援・責任体制の確立により、大学として統一性をもった資産価値の高いコンテンツの蓄積が期待される。

良質な教育コンテンツを蓄積し対面授業に取り入れることで、より効率的で達成度の高い教育が可能となり、学生の学力向上が期待される。授業内容のオンライン化によってより透明で自由度の高い学習形態が実現でき、学生の利便性が増すだけでなく、社会人等の新たな学生の開拓につながることが期待される。教員にとっても、コンテンツのデジタル化が一旦完成すると、より教育自体に専念できるとともに、ｅラーニングシステムの学習記録から学習者の学習進捗状況が個々に把握でき、より細やかな個人指導が可能となる。

なお、センター等ではなく機構という名称を用いたのには、教育のIT化の過渡期において、全学の強い連携のもと、短期集中的なｅラーニング化の推進を目指すという意味が込められている。

対外的にも、外部のさまざまな組織や大学等との情報交換や共同での開発及び研究に取り組み、その成果を社会に還元する所存である。